



戦争をさせない
1000人委員会
Anti-War Committee of 1000


信州ニュース

戦争をさせない1000人委員会・信州 2014年11月5日 第12号

〒380-0838 長野市県町 532-3 県労働会館

電話 026 (234) 2116 FAX 026 (234) 0641 E-mail vi4h-kt@asahi-net.or.jp

HP <http://sensouwasasenaishinshu.jimdo.com/>

 https://twitter.com/1000_shinshu

 <https://www.facebook.com/sensouwasasenaishinshu>

行動する主筆、気骨のジャーナリスト 中馬清福氏（信濃毎日新聞前主筆）が逝去

中馬清福さんの逝去を悼む

戦争をさせない1000人委員会・信州
事務局 喜多英之



中馬清福さん

※今年2月11日、松本市での講演会の写真。

信濃毎日新聞の主筆を今年3月まで務められた中馬清福さんが11月1日、がんのため79歳で亡くなりました。今日（11月5日）の信毎には、中馬さんの経歴や親交の深かった方々のコメントが掲載されている。4面には、

論説主幹の丸山貢一氏が綴った追悼文が掲載されている。その追悼文の中で、今年2月に松本市で開いた講演会に約9百人の聴衆が参加し、中馬さんが1時間半にわたって憲法について語ったと書かれている。中馬さんの生前最後の大規模な講演会だった。

この講演会実行委員会の事務局を私も担っていた。タイトルは「中馬清福 憲法を語る」。信毎に掲載した広告やチラシにはキャッチコピーとして「憲法の光り輝く価値を取り戻すために。気骨のジャーナリストが半生の思いを込めて」と付させていただいた。中馬さんは、事前のメールのやり取りの中で「“気骨の”などと来ると穴があったら入りたいほどの過大広告！羊頭狗肉！の趣がありますが、なるべく大入りにして

やろうとのご配慮かと存じます」「私は“気骨”ではありません。単なる“弱虫”です」と謙遜されていた。信毎に連載された大型コラム『考』を読んだり、打ち合わせ、懇親会などで中馬さんとお話をする中から、「気骨」というイメージがまさにぴったりだと感じたから、キャッチコピーにさせてもらった。

講演会当日は、740名の定員の会場に900名を超える市民が詰めかけて、文字通り立錫の余地もない状態となった。中馬さんは1時間40分にわたって、立ったまま講演していただいた。

中馬さんは講演で、自らの少年時代、戦前・戦時中から敗戦直後を振り返り、「教育勅語」に象徴される明治憲法下から、民主主義や基本的人権を保障する日本国憲法が制定される現場に立ち会った思い出、小学生・中学生時代に、家族や映画などを通じて憲法の新しい価値を学んだ体験、大学時代に樋口陽一氏などの憲法学者や沖縄訪問から憲法の歴史やこの国の現実を学んだ経験、新聞記者の駆け出し時期に防衛庁（当時）を担当し、安全保障問題を現場から学んだことなどを語られた。また、自民党改憲草案にも触れ、普遍的な価値をもつ基本的人権や個人の権利を歪曲し、天皇元首化・靖国神社参拝、集団的自衛権の行使容認をセットですすめようとしている安倍政権の危険性について述べ

られた。そして、一人ひとりの市民が憲法と暮らしを結び付け、自分の生活圏から行動していく重要性を強調された。

中馬さんには、この講演会の約2年前、2012年4月にも講演会の講師を引き受けていただいた。岩波書店社長の岡本厚さん（当時は『世界』編集長）と中馬さんとの対談式の講演会で、タイトルは「アジアと日本・日本人～東アジアの平和と共生を求めて～」。硬いテーマにもかかわらず、松本市で開いた講演会には約350人の市民が参加した。歴史認識と日本人のアジア観、沖縄・日米安保とアジア、日本と朝鮮半島との関係性など、東アジアの平和と共生を求めて、日本政府と日本人が現状をどのように認識し、行動すればよいのかを考える内容だった。

この2つの企画を通して中馬さんと打ち合わせや懇親会などで何度かお話をさせていただいた。信毎本社に打ち合わせに行くと、実務的な打合せだけでなく、政治状況や運動の進め方などについても意見交換させてもらった。打ち合わせが終わったら必ず、10階の会議室から1階のロビーまで見送りに来ていただいた対応には恐縮した。

中馬さんは、市民の中に入り双方向で意見を交換する場をたくさん持っていた。机の上だけでなく、まさに「行動する主筆」だった。2月の講演会の講師をお願いした時、「私は目下、平均週一回、県内各地、大勢ではなく少数の人々の集まりに可能な限り参加して、マンツウマン方式で護憲・秘密法反対を訴えておりました」「私のような凡庸な記者は『裸足の医者』に過ぎません」とメールで返信があり、いったんは講師をお断りされてしまった。私は「中馬さんには憲法の解説をお願いしているのではなく、中馬さんが憲法と出会い、半生を通して憲法の価値を読者や市民に伝えようとしてきたその生きざまを語ってもらいたい。その中馬さんの思いを多くの市民に伝えたい」と食い下がり、講師を引き受けてもらった経緯も思い出す。



2月の講演会には会場があふれる900人の市民が来場した。

中馬さんが憲法を語る時、学者風の解説ではなく、自らの体験をもとにわかりやすい言葉で話されていた。市民一人ひとりが憲法といかに向き合うか、いかに自分の事として憲法を考えるのかを常に訴えられていた。

2月の講演会後の慰労会。中馬さんはお酒を飲まれなかった。「少し体調が悪くて控えているんです」とおっしゃっていた。その前に酒席でご一緒させていただいたときは、日本酒をおいしそうにたしなんでおられたのに。

中馬さんには6月頃、「戦争をさせない1000人委員会・信州」の呼びかけ人に就いてもらえないかとお願いした。体調をこわされて手術を受けられたと伝え聞いていたが、ここまで悪いとは思っていなかった。呼びかけ人には就いていただけなかったが、中馬さんには、主筆を退任された後、憲法にとって正念場となる情勢なので、ぜひ県内でもっと多くの市民と向き合う場に来てほしいと伝えてあった。

集団的自衛権の行使を容認する閣議決定が強行され、日米ガイドライン、関連法の「改正」が迫っている状況のなか、中馬さんだったらどのような言葉で市民に語りかけるだろうか。市民一人ひとりが今何をなすべきか、どう話されるだろうか。

残念でならない。今こそ必要な人だった。

中馬さんのご逝去に心からご冥福をお祈りする。

公開講演会「中馬清福 憲法を語る」（今年2月11日／松本市）DVD、講演録の在庫あります。ご希望される方は、「1000人委員会・信州」事務局までお問い合わせください。郵送料など実費でお送りします。